

お客様各位


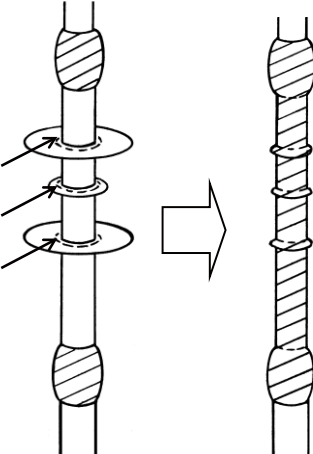
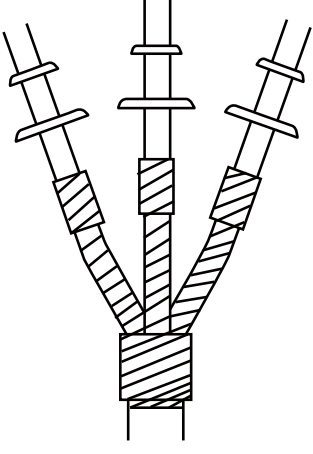
スリーエム ジャパン株式会社
電力・電子ソリューション事業部スリーエム ジャパン（旧社名：住友スリーエム）製「6.6kVハイ-Kターム」の変形について

日頃は、弊社製品をご愛用いただき、誠にありがとうございます。

弊社の高圧端末処理材料におきまして、10年以上経過した屋内使用されている一部の端末笠部および三又管に変形が生じる事象が確認されました。 [変形の例：写真参照]

この変形はゴムの軟化で、本体機能への影響はありません。また、この製品本体は、屋外用と兼用になっているので笠がありますが、屋内用途としては笠がなくても性能は問題ありません。

補修が必要な場合には「補修方法」に従った補修をお勧めします。補修により形状は変わりますが、お客さまが使用されている環境における性能を維持できます。 [補修方法：図参照]

変形の例	笠部補修方法	三又管部補修方法
 <p data-bbox="124 1512 486 1550">〈端末笠部〉 〈三又管部〉</p>		
<p data-bbox="114 1579 531 1668">本補修での屋内端末としての機能は確認済です。</p>	<p data-bbox="547 1451 710 1512">変形した笠を切り取る</p> <p data-bbox="726 1451 965 1668">端末本体に自己融着テープを半重ね2回（1往復）巻く。自己融着テープの上にビニルテープを半重ね2回（1往復）巻くことにより変形防止となります。</p>	<p data-bbox="1002 1451 1417 1668">三又管把持用のスチールバンドを外し、三又管全体を自己融着テープ巻きを右図の斜線部分（端末本体下部から三又管下部のケーブルまで）に半重ね2回（1往復）巻く。自己融着テープの上にビニルテープを半重ね2回（1往復）巻くことにより変形防止になります。</p>

笠部変形の原因は、屋内の高圧受電設備内に発生するオゾンと周囲温度が高温となる環境下で、まれに発生するゴム成形品の表面酸化劣化です。本端末の電界緩和機能は、本体内部高誘電率チューブにより行われておりますので、この変形による本体機能への影響はありません。

問合わせ先：スリーエム ジャパン株式会社 カスタマサービス本部カスタマコールセンター
ナビダイヤル：0570-012-321
受付時間：8:45～17:15（土・日・祝日は除く）

弊社は2014年9月1日に「スリーエム ジャパン株式会社」に社名変更を実施いたしました。